

## 1 学校教育目標

進んで学ぶ人 心身を鍛える人 思いやりのある人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力を身に付けさせる学校</li> <li>○心身ともに健やかな生徒を育てる学校</li> <li>○生徒、保護者、地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒</li> <li>○心身ともに健康で、自らの課題に一生懸命に取り組む生徒</li> <li>○礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善に向け、日々研究、実践に努める教師</li> <li>○生徒一人ひとりを理解し、温かな気持ちをもって生徒の健全育成に努める教師</li> <li>○教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

#### ○学校について

〔良さ〕 落ち着いた、和やかな雰囲気の中で日々の教育活動が行われている。

〔課題〕 感染防止をしながらも、学校行事をはじめとした様々な教育活動を実施することで生徒の成長につなげていく。

#### ○生徒について

〔良さ〕 素直で明るい生徒が多く、指導を受け入れ成長しようとしている。

〔課題〕 自ら課題を見つけ、失敗を恐れずに挑戦、成長しようとする姿勢を身に付けさせる。

#### ○教師について

〔良さ〕 生徒の成長のために熱心に指導に取り組むことができる。

〔課題〕 新たな教育課題に対応し、組織的な解決を推進する。

### 【前年度の成果と課題】

【成果】 ○心を耕す活動について、どの項目も成果をあげることができた。

○不登校生徒について、関係諸機関との連携を推進できた。

【課題】 ○わかる、楽しいと感じることのできるよう授業改善を進める。

○自己肯定感をさらに育成するために、お互いを認め合える場を設定するとともに、自らの役割を果たすことの大切さを理解させる。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな身体の育成	○	○	○	○	○

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
自ら考え、学ぶ生徒の育成		令和5年度区調査通過率65%以上 年度末到達度確認テスト平均正答率65%以上		令和5年度区調査通過率70.4% 年度末到達度確認テスト平均正答率66.9%		令和5年度区調査通過率は目標通過率を5.4%上回った。 年度末到達度確認テストは目標平均正答率を1.9%上回った。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続 (改善)	授業改善	全教員 全教科	通年	教員の授業力の向上 ・ねらいの提示、振り返りの確実な定着 ・考える時間、話し合う時間、発表する時間の設定による深い学びを目指す ・教科指導専門員等の活用、OJT組織の活性化	・生徒アンケート ・振り返りシート ・授業観察	・「授業の内容をしっかりと理解できた」90%以上 ・「授業が充実していて学ぶ楽しさを感じた」90%以上	・「授業の内容をしっかりと理解できた」86.8%。前年度から2.2%増加。 ・「授業が充実していて学ぶ楽しさを感じた」85.8%。前年度から1.7%増加。	・授業がわかる、楽しいと感じている生徒が昨年度よりも増加した。 ・授業改善に取り組んでいることが授業観察の際にもわかる。	○

2 継続 (改善)	家庭学習 の充実	全生徒 全教科	通年	授業での振り返りをもと にした主体的な家庭学習 を目指す	・生徒アンケート	・「家庭学習を するときの勉強 内容、方法が わかる」70%以上	・「家庭学習を するときの勉強 内容、方法が わかる」72.1%。前 年度から6.4%増加。 ・「一日平均30分以 上、家庭学習をする 習慣が身について いる」62.4%	・自分にとって必要 なことを考えて学習 することを指導して きた結果、家庭学習 を充実させようとす る生徒が増えてきた。 ・進んで家庭学習に 取り組む姿勢を育成 する必要がある。	○
3 継続	I C T の 活用	全教員 全教科	通年	・授業での効果的な活用 ・家庭学習での活用	・各教員への アンケート ・授業観察	・ICT 機器を効 果的に活用し ている	・授業ではどの教員 も効果をj考えて ICT 機器を活用してい る。区で求めている 活用能力もほとん どの教員が身に付 けている。 ・授業の復習や調 べ学習等に家庭で 活用させている。	・どの場面で、ど のように活用すると 効果的かについて OJT をとおしてさら に身に付けていく。	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心を耕す活動の推進		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 90%以上	目標実現に向けた各取り組みにおいて、1つを除き肯定的回答がすべて 85%を超えている。	・学校生活で達成感を感じている。また居心地の良い学級づくりや思いやりのある行動ができています。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの所属する集団をより良くするための生徒会活動の活性化</li> <li>・行事において生徒が自ら考え行動できる場面の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行事や委員会活動で自分の役割を考えて行動している」86.5%。前年度より 4.1%増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活すべてにおいて生徒に呼びかけ、場面を設定してきた成果が表れたと考える。さらに継続していく。</li> </ul>	○
自尊感情、自己肯定感の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した授業の実践</li> <li>・行事の充実と部活動の活性化</li> <li>・構成的グループエンカウンターの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の内容をしっかりと理解できた」86.8%。前年度から 2.2%増加。</li> <li>・「行事や体験活動に積極的に参加し、達成感を得られた」88.1%。前年度より 3.3%増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情、自己肯定感を高めるために「できた」と感じられる場面を多く設定した成果が表れた。今後も学習、生活の両面から育成する。</li> </ul>	◎
思いやりのある生徒の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いを認め合う場面の設定</li> <li>・道徳授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思いやりをもって友人に接している」96.1%。前年度とほぼ同等。</li> <li>・「学級の人に認められていると感じる」73.2%。前年度より 1.2%増加。</li> <li>・「学級での居心地が良く、落ち着いて生活できている」88.4%。前年度とほぼ同等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりをもって友人に接したり、お互いを認め合ったりすることで、居心地の良い学級が実現できている。</li> </ul>	◎

いじめ・不登校への対策	いじめの早期発見、早期解決とともに、関係諸機関との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q U 調査の活用</li> <li>・ 特別支援委員会の充実</li> <li>・ 関係諸機関との連携</li> <li>・ S N S 学校ルールの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめアンケートや Q U 調査を活用し、いじめの迅速な解決を図った。</li> <li>・ 不登校生徒を関係諸機関と連携して支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校生徒はほとんどが関係諸機関と連携している。今後も支援を継続する。</li> </ul>	○
-------------	--------------------------------	--	--	---	---

重点的な取組事項－3		健やかな身体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な生活を身に付ける態度の育成		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 70%以上	・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気を付けている」79.8%	・保健指導、食育とともに保健体育の授業で身体づくり運動に取り組み、健康への意識を高めている。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠、食生活など身体をつくる元となる事柄についての啓発</li> <li>・体力テスト結果を活用し、日常的な身体づくり運動の指導</li> </ul>	・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気を付けている」79.8%	・保健体育での体づくり運動、保健指導をとおして日頃から健康を意識した生活をさせている。	◎
健康教育の推進	健康保健教育指導を年3回実施	・小児生活習慣病検診の前後指導、歯科衛生指導、いのちの授業の実施	・健康保健教育指導を年3回実施した。	・自分の健康に興味をもたせることができた。	◎
食育の推進	生徒アンケートの関連項目で食への関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsへの取組をとおして食への関心を高める指導の実施</li> <li>・家庭科授業や給食時を活用した食育授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の給食時間に給食の献立や食材に関する放送を行い、意識を高めた。</li> <li>・もりもり給食週間に栄養士と担任が食育に関する指導をした。</li> <li>・給食だよりをとおして啓発活動をした。</li> </ul>	・食事の大切さについて意識を高めることができています。今後も継続する。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項—1 学力向上アクションプラン

【成果】○授業がわかる、楽しいと感じている生徒が昨年度よりも増加した。

○自分にとって必要なことを考えて学習することを指導してきた結果、家庭学習を充実させようとする生徒が増えてきた。

【課題及び解決の方向性】

○ICT 機器をどの教科でも活用しているが、さらに効果的な使い方や場面について、OJT をとおして身に付けられるようにする。

#### 重点的な取組事項—2 豊かな心の育成

【成果】○学校生活で達成感を感じたり、自分の役割を考えて行動したりしている生徒が 85%以上いる。

○思いやりをもって友人に接したり、お互いを認め合ったりしていることで、居心地の良い学級が実現できている。

【課題及び解決の方向性】

○不登校生徒は残念ながら減少していない。しかしほとんどの生徒がいずれかの関係諸機関と連携して支援できている。学校や社会との関係を保てるよう指導を継続する。

#### 重点的な取組事項—3 健やかな身体の育成

【成果】○健康教育や食育を推進したことで、健康な生活を身に付けようとする態度を育成することができた。

【課題及び解決の方向性】

○健康への興味は高まっているが、ゲームやインターネット等のデジタル機器を長時間、使用している生徒もいる。SNS ルールを活用し、適切な使用方法、使用時間について考えさせていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

生徒からのアンケート結果に、「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている」「思いやりをもって、友人に接している」「学級での居心地が良く、落ち着いて生活できている」等、和やかで明るい学校生活の様子が表れています。これも保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。生徒、保護者の皆様のご期待に応えられるよう、さらに努力いたします。

今年度から学校公開週間や学校行事などの機会においていただけるようになりました。ぜひ七中の様子を直接ご覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

日頃から「自分で考え、進んで行動しよう」と生徒たちに呼びかけております。その結果、家庭学習の内容を自分で考えて行ったり、行事や生徒会活動で自分の役割を考えて行動したりする生徒が増えてきました。自分のなすべきことを考え、発言し、行動できる人になってもらいたいとの願いを込め、この姿勢を認め、励ますことで、さらに力を伸ばせる学校にしていきたいと思いますので、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。